

教祖百四十年祭 約12万人帰参



真柱様：三年間の努力の上に立ち 新たな歩み出しを

神殿講話に立たれた真柱様は、教祖の年祭は、教祖がお姿を隠されたという事情によることを振り返られ、全教が仕切って一手一つにたすけ一条の活動に取り組んで来たことについて「一生懸命つとめた人であるほ

した。神殿講話に立たれた真柱様は、教祖の年祭は、教祖がお姿を隠されたという事情によることを振り返られ、全教が仕切って一手一つにたすけ一条の活動に取り組んで来たことについて「一生懸命つとめた人であるほ

教祖140年祭は、1月26日午前10時30分より教会本部において中山大亮様祭主のもと執り行われました。教祖年祭は、教祖が現身を隠された元一日に思いをいたし、成人を指して世界たすけのさらなる前進を誓う祭典。この日まで仕切った三年千日の年祭活動では、論達第四号に心を合わせ、教祖ひながたの道を手本に一人ひとりが心を定めて実行することを主眼に進められました。

ど、今日の目を勇んだ心で迎えることができたのではないかと思います。」「年祭に向かつてのいわば非常時の歩みは終わりました。これから普段の歩みになっていくわけですが、普段と言っても、三年前に戻ってしまったのでは何にもなりません。三年間の努力の上に立った歩みを続けていかなければならないと思います。今日は新たな歩み出しの日でもあります。」と、これから勇んで歩み続けることを呼びかけられました。

本島からの帰参者数は1千025名(帰参報告数による)。1月25日、本島詰所に宿泊した人数は361名。また詰所受入ひのきしん隊には28名(在籍者を除く)が勤めました。

教祖年祭に続いて「教会長ご招宴」が1月28日より5回に分けて天理大学柚之内第一体育館にて催され、本島より教会長108名が出席しました。

また本島鼓笛隊は、年祭前日の1月25日午後2時30分より本部南参道(黒門跡地)にて御供演奏を実施。現役、リーダー、OBやOG有志79名が高らかに演奏をおこないました。

年祭の記念品として、教会本部より各教会に色紙、各帰参者にはハンドタオルが下附されました。

本島通信

発行所 〒763-0223
香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会

電話 0877-27-3321 (代)

本島通信編集室 R.260125-0128-15

奈良県天理市指柳町270-1

本島詰所 〒632-0093

電話 0743-63-1571 (呼)

<https://www.honjima.com>

Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間

[2月1日～2月15日]

朝づとめ 午前6時45分

夕づとめ 午後6時15分

[2月16日～3月31日]

朝づとめ 午前6時45分

夕づとめ 午後6時30分

世界が仲良く楽しく暮らす 陽気ぐらし目指して

本島大教会長 片山幹太 かたやま かんた

本日は本島大教会の立教189年春季大祭に遠近を問わず、国内はもとより海外からも大勢お帰りくださり、誠にありがとうございます。

私たちは国内、海外など、遠い近いで分けてしまいがちですが、教祖からご覧になったら、きつと内も外も分け隔てなく、一れつ可愛い子どもでしょう。改めまして教祖140年祭間近の春季大祭に際し、ご挨拶させていただきます。皆さま、おめでと



うございます。ありがとうございます。只今の外気温は3・5℃とのこと。私たちは神殿内で、ストーブもありますので暖かいのですが、きつとおどろばは寒いことでしょう。

明治20年陰暦正月26日、教祖が現身を隠されたときの気温も3℃から4℃だったとのこと。ですから、このままおつとめ着で外で神殿講話をしたら、140年前の大ふしの一端を体感できることでしょう。

先人はとても厳しい環境のもと、命をかけておつとめを勤められました。そのことを考えると、今日の私たちは大変有難いことだと思ひながら、今日の話を進めさせて頂きたいと思ひます。

本題に入る前に、この場で一つ歌を歌いたいと思ひます。「おやがみさま」という歌です。ご存知の方は一緒をお願いします。いきますよ。

「おやがみさま」

とおいとおい そのむかし
おやがみさまは にんげんを
つくりたもうた お父さま
つくりたもうた お母さま

みんながなかよく くらすなら
みんながたのしく くらすなら
おやがみさまも どんなにか
お手々たたいて およろこび

親神様のお立場と思召を端的にお示しくださっている歌です。あらためてこの歌を心に治めて通らせて頂きたいと思ひます。

教祖140年祭を間近に迎えたこの旬に、もう一度真柱様の思ひを振り返りたいと思ひます。

諭達第四号の最後は「御存命でお働き下さる教祖にご安心頂き、お喜び頂きたい」と締めくくられています。「ご安心」「お喜び頂きたい」の2点についてお話ししたいと思います。教祖にご安心いただくためには、何が必要なのか、私の思案は2つあります。

一つ目のヒントは「元の理」です。一部分を拝読します。

最初に産みおろされたものは、一様に五分であつたが、五分五分と成人して、九十九年経つて三寸になった時、皆出直してしまい、父親なるいざなぎのみことも、身を隠された。しかし、一度教えられた守護により、いざなぎのみことは、更に元の子数を宿し込み、十月経つて、これを産みおろされたが、このものも、五分から生れ、九十九年経つて三寸五分まで成人して、皆出直した。そこで又、三度目の宿し込みをなされたが、このものも、五分から生れ、九十九年経つて四寸まで成人した。その時、母親なるいざなぎのみことは、「これまでに成人すれば、いづれ五尺の人間になるであろう」と仰せられ、につこり笑うて身を隠された。そして、子等も、その後を慕うて残らず出直してしもうた。とあります。

ここで注目したい言葉は「成人」と「につこり笑うて身を隠された」です。五分とは約1・5センチ。三寸は約9センチ。九十九年かけてそのぐらゐの成人です。一般的には「成長」ではないかと思うのですが、教祖は「成人」と仰せられています。それは

身体の成長だけでなく、心の成長も含まれているというのが私の悟りです。

そしてスタートラインは五分から。最初に三寸、次は三寸五分、その次は四寸まで成人して出直します。スタートラインは同じでも、毎回成人の幅が大きくなっている。繰り返しながら、成人の幅が大きくなっている。そこに大事なポイントがあるように思います。

そして「にっこり笑うて身を隠された」のは、いざなみのみこと様が子どもの成人していく姿を見られたからではないでしょうか。つまり成人していく姿が「安心」ということだと思います。

ですから私たちは10年に一度迎える教祖年祭のたびに、生涯かけてどこまでも成人の歩みを止めないように努めさせていただく。それが教祖のご安心につながると思います。

ですから、誠実の心で、思いやりの心、おたすけの心、そのような教祖のお心に近づけるように、成人の歩を進めさせていただきたいと思います。

もう一つは、明治20年陰暦正月26日、現身を隠されるときに教祖は

十二下りの最後のお歌が終わる頃、「陽気な鳴物の音を満足気に聞いたら」とあります。この「満足気」というのも安心ということになるのではないのでしょうか。

つまり私たちは教祖に安心していただけるようなおつとめを勤めることが大切です。形式も大事ですが、世界たすけの心を定めて勤めることが不可欠ではないかと思っています。

この明治20年陰暦正月26日のおつとめですが、稿本天理教祖伝を読み解きますと、鳴物は揃っています。ん。かぐらづとめの女性がつとめのお役は男性が担っておられます。て、をどりのおてふりも男性ばかり6人で勤められています。形は不揃いであつたけれども、教祖は満足気におつとめを聴いてくださっておられた。そう思うと、我々の心定めが何より教祖にご安心いただけるおつとめの勤め方ではないのでしょうか。

先ほど歌った「おやがみさま」の歌の2番歌詞は「みんなが仲良く暮らすなら、みんなが楽しく暮らすなら、親神様もどんなにかお手々たたいてお喜び」とあります。

私たちの信仰の目的は、陽気ぐらし世界実現にあります。具体的には

世界中の人たちが、みんな仲良く楽しく暮らしていく世界。これが何よりの目標であり、目的地であります。今は残念ながら争いがあちこちで行われていますが、陽気ぐらしに近づけば近づくほど、親神様はお喜びくださり、手を叩いて喜んでくださる。

そのために、私たちは教祖から「つとめ」と「さづけ」をお教えいただきました。しかし、おつとめをつとめること、おさづけを取り次ぐこと、それが目的ではなく、あくまでも世界中の人たちが仲良く楽しく、ということが目的地であり、そのために外に向かって働きかけ実行していく。その通り方が、教祖にお喜びいただけることにつながっていくと思うのです。

まずは一対一からでも、仲良く楽しく暮らせるように、信仰にもとづいて、教祖をお側に感じながら、通らせていただきたいと思います。

最後に、教祖年祭の前に、稿本天理教祖伝の最後の部分を読ませて頂きます。

第十章「扉ひらいて」は次のお話から始まります。

明治十九年も暮れ、明けて二十年一月一日(陰暦十二月八日)の夕方に、

教祖は、風呂場からお出ましの時、ふとよろめかれた。その時、伺うと、「これは、世界の動くしるしや。」と、仰せられた。

とあります。

ここからお側の方々との間で最後のお仕込みが始まるのですが、その部分を飛ばして、現身を隠される前日のところから読ませて頂きます。

二月十七日夜(陰暦正月二十五日夜)、今にして思い返せば、教祖が現身を以てこの世に現れて居られた最後の夜であるが、この夜、教祖のお身上宜しからず、飯降伊蔵を通して伺った処、

さあ／＼すつきり／＼に踏み均らすで。さあ／＼扉を開いて／＼、一列ろくぢ。さあ／＼ろくぢに踏み出す。さあ／＼扉を開いて地を均らそうか、扉を閉まりて地を均らそうか／＼。

とのお言葉である。

人間は、親神の目から御覧になれば、皆一列に兄弟姉妹である。魂の理から言うならば、些かも高低上下の差別はない。ろく／＼の立場、一列兄弟の立場に於いて、総ての人々が

語り合う処にこそ、陽氣ぐらしの世界への門出がある。即ち、人々の心をろつくの地にしようと思うが、さて、扉を開いて地を均そうか、扉を閉めて地を均そうか。

と、問われた。

これに対し、一同から、扉を開いてろくどに均らし下されたい。と答えると、この時、伺いの扇がさっと開いた。そして、

成る立てやい、どういう立てやい。いずれくく引き寄せ、どういう事も引き寄せ、何でも彼でも引き寄せる中、一列に扉を開くくくく。

道の理と世界の理とが、いよいよ立て合つて来た。世界たすけの道をつけようとて、どのような者もこのような者も、皆、元のやしきへ引き寄せて来てあるし、どのような事柄も、皆、このやしきへ引き寄せて来てある。何でも彼でも、皆、引き寄せる中に、扉を開いて世界たすけに出たならば、ころつと道の様子が変つて来る。

と、仰せられた。

これにつづいて、尚も、世界の事情運ばして貰いとう御座ります。と、又しても、教会設置の事を願うと、

「ならんくくく。」

取り違えてはならん、もっと迫っている。

と、お知らせ頂いた。

明くれば二月十八日、陰暦正月二十六日である。恰も、従来から毎月、つとめをして来た日であるし、殊には、教祖のお身上に関して、つとめをお急込みになっている。近郷近在からは多数の参拝人が詰めかけている。しかも、官憲の目は厳しく、一つ間違えば、お身上中の教祖をも拘引しかねまじい剣幕である。人々はこの板挟みの中に立つて、思案に暮れた。そこで、思召を伺うと、

さあくいかなるも、よう聞き分けよくくく。さあくいかなるもどうも、さあ今一時、前々より毎夜々々々伝える処、今一つのこの事情早うから、今からと言うたなあ。さあ、今という処諭してある。今から今掛かるといふ事を、前々に諭してある処、さあ今の今、早くの処急ぐ。さあという処、応分という処あろう。待つという処あろう。さあく一つの処、律が、律が怖わいか、神が怖わいか、律が怖わいか。この先どうでもこうでも成る事なら、仕方があるまい。

前々より知らしてある。今という刻限、今の諭じやない。どういう処の道じやない。尋ぬる道じやない。これ一つで分かるう。

その事は前々から繰り返し繰り返し諭した通りである。もっと早くから言うている。さあ、今と言うたら今直ぐに掛け。さあ、早く急いで取り掛け。手続きをするから、それ迄待つてくれ、というような悠長な事を言うている場合ではない。一体、お前達は法律が怖いのか。をやの話が尊いのか、どちらに重きを置いて信心をしているのか、この点をよく考えなければいけない。親神の思いが奈辺に在るかという事は、前々から十分諭してある。説いてある。今の刻限は、もう尋ねている時ではない。これだけ言うたら分るであらうとの仰せである。

このお言葉を頂いて、一同心を定めていると、その日の正午頃から、教祖のお身上がいよいよ迫つて来たので、一同全く心定まり、眞之亮から、おつとめの時、若し警察よりいかなる干渉あつても、命捨ててもという心の者のみ、おつとめせよ。と、言い渡した。一同意を決し、下着を重ね足袋を重ねて、拘引を覚悟

の上、午後一時頃から鳴物も入れて堂々とつとめに取り掛った。その人々は、地方、泉田藤吉、平野権蔵。神楽、眞之亮、前川菊太郎、飯降政甚、山本利三郎、高井直吉、桝井伊三郎、辻忠作、鴻田忠三郎、上田いそ、岡田与之助。手振り、清水与之助、山本利三郎、高井猶吉、桝井伊三郎、辻忠作、岡田与之助。鳴物、中山たまへ(琴)、飯降よしゑ(三味線)、橋本清(鼓)であつた。

当時まだ幼少であつたたまへも、嬢、今日はお前もおつとめに出よ。との、眞之亮の言葉によつて、つとめに出た。家事取締りに当つたのは、梅谷四郎兵衛、増野正兵衛、梶本松治郎。以上総計十九名。

つとめは、かんろだいのぢばを中に囲んで行われた。この日、つとめの時刻には参拝人が非常に多く、その数は数千に達したので、つとめ場所の南及び東には、濫りに入り込まないよう竹を横たえて結界としたが、次々とその数を増して来る参拝人のため、遂にその竹は細々に割れたという。つとめは午後一時頃から始まったが、とうとう巡査は一人も来なかつた。かくて、つとめは無事におわつた。人々にとっては、これこそ

驚くべき奇蹟であつた。

しかし、これと立て合つて、陽気な鳴物の音を満足気に聞いておられた教祖は、丁度、「だいくのにもそろひきた」という十二下りの最後のお歌の了る頃、一寸変つたそぶりをなされたので、お側に居たひさがお水ですか。と、伺つた処、微かに「ウーン」

と、仰せられた。そこで水を差上げた処、三口召し上つた。つづいて、おばあ様。と、お呼び申したが、もう何ともお返事がない。北枕で西向のまま、片手をひさの胸にあて、片手を自分の胸にのせ、スヤスヤと眠つておられるような様子であつた。ひさは大いに驚いて、誰か居ませんか、早く眞之亮さんと呼んで来て下され。と、大声に呼んだ。報せを聞いて、眞之亮が早速駆けつけた。つづいてたまへ、おまさ、と、相次いで駆けつけて来た。

たまへの着いた時、眞之亮は、嬢早よ来い。と、大声で呼んだ。たまへは、おばあ様がおやすみになつてゐるのに、そんな大声を出してよいものか、と、いぶかっている、側に居たひさが、嬢ちゃん、おばあ様がこんなになられた。と、言いなが

ら、たまへの手を教祖のお顔に持つて行き、つめたいやろな。おばあ様は物言わはらへんねがな。と、言うたので、それを聞いて、初めてそれと知つたたまへは、「ワー」と大声で泣いた。眞之亮は、泣くな。と、なだめてから、早速一同の人々に事の由を伝えた。

つとめを無事了えて、かんろだいの所から、意気揚々と引き揚げて来た一同は、これを聞いて、ただ一声、「ワーツ」と悲壮な声を上げて泣いただけで、あとはシーンとなつて了つて、しわびき一つする者も無かつた。

教祖は、午後二時頃つとめの了ると共に、眠るが如く現身をおかくしになつた。時に、御年九十歳。

人々は、全く、立っている大地が砕け、日月の光が消えて、この世が真つ暗になつたように感じた。眞実の親、長年の間、何ものにも替え難く慕い懐しんで来た教祖に別れて、身も心も消え失せんばかりに泣き悲しんだ。更に又、常々、百十五歳定命と教えられ、余人はいざ知らず、教祖は必ず百十五歳までお居て下さるものと、自らも信じ、人にも語つて来たのみならず、今日は、こうし

ておつとめをさして頂いたのであるから、必ずや御守護を頂けるに違いないと、勇み切つていただけに、全く驚愕し落胆した。人々は、皆うなだれて物を言う気力もなく、ひたすらに泣き悲しんでいたが、これではならじと氣を取り直し、内蔵の二階で、飯降伊蔵を通してお指図を願うと、

さあくろつくの地にする。皆々揃つたかく。よう聞き分け。これまでに言つた事、実の箱へ入れて置いたが、神が扉開いて出たから、子供可愛い故、を、やの命を二十五年先の命を縮めて、今からたすけするのやで。しっかりと見て居よ。今までとこれから先としつかり見て居よ。扉開いてろつくの地にしようか、扉閉めてろつくの地に。扉開いて、ろつくの地にしてくれ、と、言つたやないか。思うようにしてやつた。さあ、これまで子供にやりたいものもあつた。なれども、ようやらなんだ。又々これから先だんくに理が渡そう。よう聞いて置け。

と、お言葉があつた。

さあ今から世界を平な地にする。今迄に言つた事は、実の箱に入れて置いたから、いよいよ親神がやしろ

の扉を開いて出たからには、総て現われて来る。子供可愛いばかりに、その心の成人を促そうとて、まだこれから先二十五年ある命を縮めて、突然身をかくした。今からいよいよ、世界を駆け巡つてたすけをする。しっかりと見ていよ。今迄これから先と、どう違つて来るか確り見えていよ。昨日、扉を開いて平な地に均そうか。扉を閉めて均そうか、と言つた時に、扉を開いて平な地に均してくれと、答えたではないか、親神は心通りに守護したのである。さあこれ迄から、子供にやりたいものもあつた。なれど、思うように授ける事が出来なかつた。これから先、だんだんにその理を渡そう。

このお諭しを聞いて、一同は、アツと思つた。が、昨日答えた言葉を、今日言い直す事は出来ぬ。昨日お答え申上げた時の一同の心からすれば、姿をかくされようとは、全く思いもかけない事であつた。しかしながら、姿をかくして後までも、生きて働かれると聞き、成程、左様であるか、教祖は、姿をかくして後までも、一列たすけのために、存命のままお働き下さるのか、それならば、と、一同の人々は漸く安堵の胸を撫で下ろ

した。

さあ、これまで住んでいる。何処へも行てはせん。何処へも行てはせん。日々の道を見て思やんしてくれねばならん。

(明治23年3月17日)

一列子供を救けたいとの親心一条に、あらゆる艱難苦勞の中を勇んで通り抜け、万人たすけの道をひらかれた教祖は、尚その上に、一列子供の成人を急込む上から、今ここに二十五年の寿命を縮めて現身をかくされたが、月日の心は今も尚、そしていついづまでも存命のまま、元のやしきに留まり、一列子供の成人を守護されている。日々に現われて来るふしぎなたすけこそ、教祖が生きて働いて居られる証拠である。

月日にハセかいぢうつハみなわが子かハいい、ばいこれが一ちよ

(十七号16)

以上でございます。

教祖年祭の当日は、この教祖の心をしっかりと胸に治め、新たな歩み出しをお誓い申し上げます。ご清聴ありがとうございます。

(文責・本島通信編集室)

大教会辞令

(立教189年1月22日付)

青年会本島分会

委員長	伊東賢太郎
副委員長	内橋和博
同	鎌田康典
同	向所慶太
同	白垣俊生
委員	神前和博
同	江崎大
同	菅岡繁理
同	香川靖幸
同	井上周平
同	吉田貴慶
同	伊東孝之
同	肥後信
同	岡崎八郎
同	片山幹太郎
同	大矢龍治
同	奥村由多加
同	鎌田仁史
同	新見寿明
同	永島太生
同	宮路広大
同	片山好次
同	片山元一
同	岡崎一志
同	平井諭

少年会本島団

団長	片山直明
副団長	梅木澄代
同	佐藤道子
同	横山富明
委員	向所千夏
同	肥後良子
同	大矢万三
同	岩橋元博
同	窪田卓夫
同	酒井ゲリー
同	長尾海和
同	牧野近弘
同	高垣洋子
同	窪田奈穂美
同	岩橋貴子
同	長尾善絵
同	松下尚一
同	鎌田いつほ

(立教188年10月1日付)

本島詰所主任 大西 知

(立教188年10月27日付)

青年会本部部員 向所慶太

以上

大教会長動向

▼2月(予定)▲

- 1日、教会長ご招宴ひのきしん
 - 5日、本部神殿奉仕当番
 - 22日、大教会月次祭執行
 - 23日、河原町大教会参拝
 - 24日、修養科門出まなび
 - 25日、かなめ会委員会
 - 26日、本部月次祭参拝
 - 27日、3月2日、教人資格講習会講師
- 以上

入社祭

(立教189年1月22日)

▼ラナイ△キャサリン・カット・ジユマロン

【計1名】

1月22日(木)	
【香川県丸亀市】	
天候	晴後一時雪
最低气温	1.0℃
最高气温	5.5℃
平均気圧	1019.4 hPa
平均湿度	48 %
平均風速	4.8 m/s
日照時間	5.0 時間
降水量	0.0 mm



教祖140年祭を迎える春季大祭にあたり、てをどりの後、教祖殿祭文を奏上いたしました。

春季大祭祭典役割

献饗長 岡崎八十則
伝 供 向所隆文・永島宗行・大上道徳・原口実・後藤正治・奥村龍夫・伊東康成・片山直明・茶屋原良昭・高島栄造・横関茂治・長尾海和・老木俊彦・岩橋秀一・松下尚一・香川勝巳・鎌田典夫・
宮路和徳・村田輝夫・橋口徹・大久保荒和・古井信・川村吉夫・溝口晋太郎・江草克一・屋敷ゲーリー・肥後信・牧野近弘・**雅楽奉仕者** 文岡育則・池田恒治・内橋和博・鎌田康典・片山昇太(順不同)

祭主 指図方	大教会長	座りづとめ	てをどり前半	てをどり後半
	岩橋竜造	片山 勲 平井真治郎	賛者	高垣光治 横山正次
地 方	井上 哲 西山道教 岡崎マーロン	向所隆文 永島宗行 後藤正治	横関茂治 長濱充憲 吉田知彦	
てをどり	大教会長 岩橋慶三 長谷川邦昭 会長夫人 前 会 長 片山孝代	岡崎八十則 窪田靖明 原口 実 池田さわみ 斉藤かよ 岡崎むつゑ	高島栄造 長尾海和 老木俊彦 伊東晴美 ソー・リン 上田敬子	
ちやんぼん 拍子木	平井真治郎 老木邦光 斉藤カーレン	奥村龍夫 篠原丕王 伊東康成	横山富明 屋敷ゲーリー 宮路和徳 茶屋原良昭 牧野近弘 松下尚一 梅木澄代 岩橋晶子 大西成美	
太 鼓	大西 知	片山直明		
すりがね	寺本教生	大上道徳		
小 鼓	牧野道昭	吉田晴雄		
三 味 線	片山やすゑ 長尾澄子 岩橋元実	鳥澤むつ代 岡崎宏子 原口和子		
神 殿 講 話	大教会長			

春季大祭祭文 立教百八十九年一月二十二日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様には「陽気ぐらしを見て共に楽しみたい」との思召からこの世と人間をお創り下され旬刻限の到来と共に教祖をやしるにこの世の表にお現れ下されよろづ委細の元の理をお説き明かし下されて世界たすけのこの御教えをお啓き下さいましたお陰を持ちまして私共は真実の親の深き御心に目覚め届かぬながらも思召にお応えさせて頂けるよう日々心勇んでたすけ一条の上に努めさせて頂いておりますがその中にもこの月は教祖が子供の成人をお急ぎ込み下さる深い親心から二十五年先の定命をお縮めになり扉を開いて世界ろくぐらに踏みならしにお出まし下されてより百四十年目の尊い月に当りますのでばの理に倣い今日の吉き日に当大教会の春の大祭を執り行い教祖年祭の元一日の理を心にたたえ尽きせぬ厚き親心に御礼申し上げつつ只今から役目に与るおつとめ奉仕者一同心を一つに結び合わせて御教え通り座りづとめてをどりを陽気に勇んでつとめさせて頂きます御前には国内はもとより海外からも遠近問わず大勢の教え子達が帰り集い日頃賜る厚き御恵に御礼申し上げ尚も変らぬ御守護にお縋りする真実の状をも御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます私共一同は教祖百四十年祭を目指して一人ひとりが教祖の道具衆としての自覚を高めそれぞれが定めた目標達成に向って三年十日を年祭活動として歩ませて頂いてまいりました道中親神様には常に温かい親心にお抱え頂いて成人の道にお連れ通り下さり誠に有難うございました私共はこれから後も教祖のひながたを心の糧とし

て力強く歩ませて頂き教祖の御心に溶けきって御教えを伝え広めさせて頂く決心でございます

何卒この心定めをお受け取り下さいますしてこの上とも自由の御守護を賜わり世界一列が互いに扶け合って思召し下さいます陽気ぐらしの世の状に立て変わりますよう御守護の程を一同と共に慎んでお願い申し上げます(原文のまま)

春季大祭教祖殿祭文

ご存命のまま日夜子供の成人の上にお心をおかけ下さいます教祖の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

教祖には魂の因縁により月日のやしろとお定まり下されてより永の歲月筆にも口にもつくせぬご苦勞の中をも勇んでお通り下されてひながたの道をお遣し頂いたばかりでなく子供可愛い一条から定命までもお縮めになり今もなお存命のまま一れつの子供の成人をお導き下さる親心の程は言葉をつくしても御礼申し上げることは出来ません私共はただだこの御厚恵にお応えいたしたいと日夜ひながたを仰ぎ百四十年祭を目指して一手一つに努めて参りましたが親心のまにまにつがなく御年祭の年を迎えさせて頂き誠に有難い極みでございます

つきましてはばの理を受けて当教会にても今日の縁ある日に春の大祭を執り行い改めて教祖の御前に参り出で教え子達と共に御苦勞の道すがらをお徳び申し上げると共に今後なお一層心を一つに結び固めてたすけ一条に勤めきる決心でございます何卒この心定めをお受け取り下さいますして新しい芽生えの道をお見せ下さると共に日一日と成人の道をお連れ通り下さるよう一同と共に慎んでお願い申し上げます(原文のまま)

本島団鼓笛隊

教祖140年祭OB&OG合同御供演奏

本島団鼓笛隊(佐藤道子部長)では、教祖140年祭前日の1月25日午後2時30分、本部南参道(黒門跡地)において御供演奏をおこない、総勢79名が演奏をお供えました。

この御供演奏はOBの中から呼びかけが行われ、現役53名(ドリーム隊2名、本隊14名、ジュニアリーダー3名、リーダー34名のほか、すでに高齢のOBやOG26名も参加。昭和41年に本島鼓笛隊が初めてこどもおぢばがえりに参加して以来60年の伝統にふさわしく、世代を越えたメンバーが

一手一つに「エレメンタリーマーチ」「スコットランド・ザ・ブレイブ」「R・Y・G」のスタンダードナンバーを演奏しました。

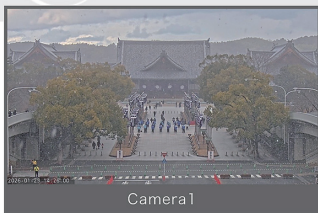
午後2時ごろ、天理は気温4℃。風速5メートルの冷たい北西風にのつてみぞれが降っていましたが、午後2時30分の演奏開始にあわせてパツと青空が広がり日光が射すという、感動的な天気にも恵まれました。

また御供演奏に先立ち、午後1時15分より詰所玄関前でも演奏を行いました。

教会本部のライブカメラには、鼓笛隊待機の時とき激しいみぞれが写っていました。



ライブカメラ Live Camera



本島団鼓笛隊 北海道地区

創立50周年記念総会



本島団鼓笛隊(佐藤道子部長)では、1月11日に本樺分教会(大上道徳会長、札幌市西区)において「北海道地区創立50周年記念総会」を実施。鼓笛隊OBやOGを含め27名が集いました。

記念式典では佐藤部長が大教会長メッセージを代読。

「50年前、先人先輩の人材育成に対する熱い思いから、北海道での鼓笛隊冬季合宿が始まりました。関係者の努力と苦心により、50年間続いてきたことに敬意を表するとともに、見えてきた課題について

立教百八十九年元旦祭祭典役割

祭主 指図方	大教会長	座りづとめ	てをどり前半	てをどり後半
	片山 勲			
地方	座りづとめ	てをどり前	てをどり後	てをどり後
てをどり	大教会長 永山晴明	片山 勲 片山 秀明	片山 勲 片山 秀明	片山 勲 片山 秀明
笛	片山 秀明	片山 秀明	片山 秀明	片山 秀明
ちやんぼん	片山 秀明	片山 秀明	片山 秀明	片山 秀明
拍子木	上野 善	上野 善	上野 善	上野 善
太鼓	上野 善	上野 善	上野 善	上野 善
すりがね	吉田 道則	吉田 道則	吉田 道則	吉田 道則
小鼓	横山 富明	横山 富明	横山 富明	横山 富明
三味線	三宅 しまえ	三宅 しまえ	三宅 しまえ	三宅 しまえ
胡弓	片山 香葉子	片山 香葉子	片山 香葉子	片山 香葉子

思案し、合宿がより充実した育成活動の場となることを願っています。」「鼓笛隊はまだ伸びしろがあると思います。最初の目的を見失わず、これから多くの少年会員を立派なようぶくへ導けるよう努めさせていただきましょ

う」と述べられました。式典後、往事の合宿映像を視聴したのち、OBやOGも一緒に楽器を手にマーチ3曲を御供演奏しました。

なお指導員として、大西知、佐藤道子、鎌田康典、香川靖幸の4名が派遣されました。

事情はいつ

立教189年1月、本島関係のお運びはありませんでした。

おさづけの理拝戴

(立教188年12月分)

御幸濱 後藤 愛

【計1名】

修養科第二〇二期修了

(立教188年12月27日修了)

新信峰 高橋勝彦

【計1名】

教人登録

(立教188年12月4日付)

鶴峰 尾関 操

【計1名】

教会長資格検定合格

(立教188年12月18日付)

吉峰 船木幸美

【計1名】

青年会マンスリー隊(最終回)

おもに大教会祭典準備ひのきしんを行ってきた青年会マンスリー隊の第16回隊(ファイナル)を1月18日に実施。青年会員6名、青年会OB4名、婦人会2名、女子青年3名の計15名が参加しました。

餅つき、名

称旗台設営、神殿中段の蛍光灯交換、合祀祭準備をおこないました。



証拠守り下附

(立教188年12月分)

御幸濱3、与島2、大松峰1

【計6名】



布教部報告(1月分) 数字は本年の提出回数です

統計(12月1日~31日)

にをいがけ名簿提出教会（1月）					
本 島	1	本米浜	1	本肥港	1
樺 太	1	本千代	1	本新田	1
本田中	1	本千賀	1	本九台	1
本倉岡	1	本千治	1	赤 峰	1
本 樺	1	本千恵	1	雅 峰	1
本 室	1	本浜陽	1	神 峰	1
渋谷	1	本 攝	1	豪 峰	1
代々木	1	攝 津	1	倉 峰	1
本萬代	1	攝 泉	1	栄 峰	1
本 都	1	本 太	1	雄福峰	1
本 京	1	本 萩	1	栄森峰	1
本 東	1	本水島	1	栄星峰	1
本 草	1	本備前	1	栄東峰	1
本 護	1	本 迪	1	霊 峰	1
本 三	1	本府中	1	大隅聖峰	1
本 恵	1	沖 浦	1	大駿峰	1
本恵山	1	本 亀	1	別 峰	1
本恵明	1	本清水	1	大英峰	1
本静濱	1	崇 徳	1	文 峰	1
本静森	1	本 高	1	鶴 峰	1
本日米	1	本宣道	1	仙 峰	1
本 米	1	本 九	1		
本米里	1	本陽山	1		
計 67 教会			667 名		

おさづけ取次報告教会(1月)					
本島	1	本米浜	1	本新田	1
樺太	1	本千代	1	本九台	1
本田中	1	本千賀	1	赤峰	1
本倉岡	1	本千治	1	雅峰	1
本陸奥	1	本千恵	1	神峰	1
本樺	1	本攝	1	豪峰	1
本室	1	攝津	1	倉峰	1
渋谷	1	攝泉	1	栄峰	1
代々木	1	本太	1	大雄峰	1
本萬代	1	本萩	1	雄福峰	1
本都	1	本水島	1	雄山峰	1
本京	1	本福	1	栄森峰	1
本東	1	本山海	1	栄星峰	1
本道盛	1	本備前	1	霊峰	1
本草	1	本府中	1	大隅聖峰	1
本護	1	沖浦	1	大松峰	1
本三	1	本亀	1	大駿峰	1
本恵	1	本清水	1	別峰	1
本恵山	1	崇徳	1	吉松峰	1
本恵明	1	与島	1	大英峰	1
本静濱	1	本高	1	文峰	1
本日米	1	本宣道	1	新信峰	1
本浜	1	本九	1	鶴峰	1
本米	1	本陽山	1	仙峰	1
本米臺	1	本肥港	1		
本米里	1	本千嘉	1		
計 76 教会 1,894 回					

教会名	初席	中席	参り座	修養科	教人講習	検定講習
御幸濱			1			
南峰		1				
吉峰						1
新信峰				1		
合計	0	1	1	1	0	1

ろくご会 (立教189年1月分)
▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真実・幸太 ▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜△片山清枝・正枝・誠 ▼崇徳分教会 ▼本高分教会 ▼ポランド△片山和信・陽子・昇慶・竜次
ご芳志に厚くお礼申し上げます



【教会の掲示板】(今回が最終回になります) 本島ドットコムよりダウンロードできます。

年間統計表(教会別)

立教 188 年

教会名	別席の誓い	おさづけの戴	修養科修了	講習会修了	教人資格	講習会修了	証拠守り	をびや許し	名簿提出回数	にをいかけ回数	おさづけ回数	教会名	別席の誓い	おさづけの戴	修養科修了	講習会修了	教人資格	講習会修了	証拠守り	をびや許し	名簿提出回数	にをいかけ回数	おさづけ回数
本清保	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	12	栄星峰	1	-	-	-	-	-	-	-	11	12	12
本備前	1	-	-	-	-	-	-	1	12	12	12	栄東峰	1	-	-	-	-	-	-	-	11	8	8
本廣島	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	霊峰	-	-	1	-	-	-	-	-	12	11	11
本迪	-	-	-	-	-	-	-	-	7	10	10	實峰	-	-	-	-	-	-	-	2	3	3	3
本府中	-	-	-	1	-	-	-	-	11	10	10	大隅聖峰	2	-	1	-	-	2	-	-	11	11	11
本中國	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	大松峰	2	-	-	-	-	2	-	-	4	11	11
沖浦	-	-	-	-	-	-	-	-	12	12	12	大駿峰	3	-	-	-	-	-	-	-	12	12	12
馬木	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	別峰	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10	10
本尾	1	-	-	-	-	-	-	-	9	10	10	吉松峰	-	2	-	-	1	-	-	1	-	1	1
本清	-	-	-	-	-	-	-	-	9	10	10	大英峰	-	-	-	-	-	-	-	2	11	11	11
本崇	1	1	-	-	-	-	-	-	12	12	12	文峰	-	1	-	-	-	-	-	1	9	5	5
与島	1	-	-	-	-	2	-	-	9	9	9	肥後八峰	-	1	-	1	-	-	-	1	1	8	8
本廣	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	9	銀峰	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2
本勇	1	-	-	-	-	-	-	-	4	9	9	新信峰	3	-	1	-	-	-	-	1	-	5	5
本高	1	-	-	-	-	-	-	1	12	12	12	鶴峰	9	-	4	1	-	1	4	11	11	11	11
本宣	-	-	-	-	-	-	-	-	11	7	7	善峰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
阿波本	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	都峰	-	-	-	-	-	-	-	1	12	11	11
本阿	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	仙峰	-	1	1	-	-	-	-	-	12	12	12
本九	-	-	-	-	-	-	-	1	12	12	12	ホノルル	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
本小倉	-	1	-	-	-	-	-	-	9	9	9	ニューギング	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
本陽山	4	-	-	-	-	1	1	1	11	12	12	カカコ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
本大和	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	ラナイ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
本新郷	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	台檀	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
本九肥	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	11	キャッスル	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
本肥港	1	-	-	-	-	1	-	-	9	11	11	ヒロ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
本山陽	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	マウイ	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
本千嘉	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	ワイルク	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
本新田	1	1	-	-	-	-	-	-	11	12	12	ポートランド	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
本九台	-	-	-	-	-	-	-	-	4	5	5	エヌ・シー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
本豊	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	ウエスタン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
本肥	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	マリーナ	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
赤峰	3	4	-	1	-	-	-	-	12	12	12	イリノイ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
雅峰	-	-	-	-	-	-	-	-	12	12	12	ミッドウエスト	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5
南峰	1	-	-	-	-	-	-	-	11	1	1	キャピタル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
吉峰	1	-	-	1	1	-	-	-	3	2	2	サザバフィク	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5	5
神峰	2	1	-	-	-	-	-	-	11	11	11	シアトル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
豪峰	1	-	-	-	-	-	-	-	12	11	11	ハリウッド	-	-	-	-	-	-	-	-	4	8	8
倉峰	1	-	-	-	-	-	-	-	11	11	11	ウイルソン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
栄峰	-	-	-	-	-	-	-	-	7	7	7	タミナル	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大雄峰	-	-	-	-	-	-	-	1	10	10	10	カリフォルニア	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
雄福	4	3	-	-	-	-	-	-	10	11	11	シータック	-	-	-	-	1	2	-	-	2	1	1
雄山	-	-	-	-	-	-	-	-	7	10	10	本伯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栄森	4	-	-	-	-	-	-	-	11	8	8	合計	77	25	12	6	3	20	33	99	104	104	104

註：[にをいかけ名簿提出回数]の合計 99、[おさづけ取次報告回数]の合計 104 は、提出教会数の合計です

立教188年

年間統計表(教会別)

教 会 名	別席の誓い	おさづけの 理 拝 戴	修養科修了	教員資格 講習会修了	教員資格 講習会修了	証 拠 守 り	を び や 許 し	名簿提出回数	におい が け	おさづけ 取次報告回数	教 会 名	別席の誓い	おさづけの 理 拝 戴	修養科修了	教員資格 講習会修了	教員資格 講習会修了	証 拠 守 り	を び や 許 し	名簿提出回数	におい が け	おさづけ 取次報告回数
本 島 太 中 岡 奥 樺 室 谷 濱 塚 山 川 路 都 木 代 都 京 東 盛 草 護 治 三 恵 山 明 濱 森 米 浜 米 臺 里 浜 代 賀 房 治 恵 濱 蘭 濱	2 1 1 - - 1 - - - - - 1 -																				

大教会からの お知らせ

1月22日教会長会議連絡事項

宮森先生おてなoshi

【おつとめ修練部】

- 日時：2月25日(水)午後3時より
- 会場：本島詰所4階講堂
- ※どなた様も受講できます。

春季雅楽講習会

【青年会本島分会】

本島・京城合同雅楽講習会@京城大

- 日時：立教189年2月7日(土)10時開講、8日(日)13時閉講
- 場所：京城大教会
- 参加御供：2000円(日帰り500円)

レッツゴー青年会

【青年会本島分会】

- 日程変更：2月16日(月)～19日(木)
- 場所：樺太・本樺・本室分教会
- 派遣委員：伊東孝之、白垣俊生、岡崎八郎

天理教少年会幹部会

【少年会本部】

- 日時：2月27日(金)午前9時30分
- 会場：第二食堂

大教会2月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- 対象：2月22日大教会2月月次祭に帰参できないため、ライブ中継視聴を希望する方
- 申込方法：メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
- 申込締切：2月21日午後5時まで
- ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。



天理教婦人会活動方針

【天理教婦人会】

天理教婦人会成人目標

ひながたをたどり
陽気ぐらしの台となりましょう

立教189年活動方針

- 一、おつとめの大切さを学び
真実の心で勤めよう
 - 一、日々に教えを実践し
おつとめを勤める人を増やそう
- ※ポスターを各教会に配布しました。

天理教婦人会 第108回総会

【天理教婦人会】

総ての会員がおぢばへ
人を誘っておぢばへ
—別席者とともに—

〈式典〉

- 日時：立教189年4月19日(日)
午前9時30分
- 会場：本部中庭、南・東礼拝場前、西境内地

〈記念行事〉

- 支部の集い：式典終了後
- 講演会：4月18日(土)午後5時
第二食堂、東講堂ほか

学生おぢばがえり大会

【本島学生担当委員会】

教祖140年祭学生おぢばがえり大会

- 日程：3月28日(土)午前10時(本部中庭)
式典「真柱様お言葉(メッセージ)」
式典後、直属アワー
- 3月27日(金)夕づとめ終了後
前夜祭「春Fes」
(東西泉水プール前広場)

- 連絡先：雲庵春彦(090-2515-8039)
横関茂治(090-1138-1690)
- ※教区参加の方も直属アワー準備のため、事前にご連絡ください。



鼓笛隊春季合宿

【本島団鼓笛隊】

第115回本島団鼓笛隊春季合宿

- 集合：3月28日(土)夕刻まで集合
- 解散：4月1日(水)朝解散
- 参加対象：令和8年度の小学1年生より高校3年生(幼稚園児不可)
- ※初めての隊員も参加できます
- 会場：本島大教会
- 参加御供：一律5000円(フェリー代含む)+送迎費2000円(片道・往復どちらでも)
- 内容：鼓笛練習、神殿前お供演奏
- 服装：練習着・帽子・ポシュエット貸与。※洗濯は28日～30日まで実施
- 携行品：健康保険証のコピー、トレーナーやパーカー2～3枚(練習着の下に着用します)、下着、靴下、パジャマ、タオル、洗面用具、入浴道具、常備薬、室内練習靴、楽譜、ファイフ(1000円で販売)、マスク
- ※ご自分の所持品が把握できないお子様のお荷物には名前の記入をお願いします
- 申込み：3月10日まで各分隊担当までご連絡ください。
- ご相談、ご質問は佐藤道子(090-7570-4807)まで

MOMOの会

【婦人会本島支部】

MOMOの会とは、本島に
つながる子育て中の母親
とその同年代の方が対象
です



◆鼓笛隊応援ひのきしん&勉強会

- 期間：3月29日(日)から31日(火)
- 場所：本島大教会
- ※詳細は公式LINEよりご確認ください

2月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・食堂ひのきしん〉

- 期間：2月21日～22日
- 派遣教会：安藝本中

〈詰所・食堂ひのきしん〉

- 期間：2月25日、26日
- 派遣教会：本岡、崇徳

<https://www.honjima.com/>